

日本応用心理学会第69回大会第1日に理事会、第2日に総会が開かれた。常任理事会提出の原案は一部修正のうえ、理事会においてすべて承認された。また、引き続き行われた総会では、理事会承認事項がすべて承認された。

日本応用心理学会 2002年度理事会

日時：2002年9月7日(土) 11:50～12:50

場所：東京富士大学高田記念館2階大会議室

1. 開会の辞 (荻野事務局長)
2. 会長挨拶 (岡村東京富士大学教授)
3. 議長選出 岡村会長を選任。
4. 報告事項

1) 事業報告

- (1) 会員の異動および会費納入状況について
(荻野事務局長)

2002年9月1日現在の会員数は正会員1044、名誉会員34、賛助会員4名。会費の過年度未納者数延べ165名。

(2) 委員会報告

i 機関誌編集委員会

(小野委員長)

高橋たまき委員長のご逝去により、委員長を交代した。「応用心理学研究」28巻1号を9月に刊行した。2号を今年度内に刊行の予定である。今後も1年に1巻2号の体制で刊行を行う。機関誌の表紙を、デザインを変えずに巻ごとに色を変えることにした。

ii 認定「応用心理士」認定審査委員会

(岡村委員長)

2001年度後期および2002年度前期の登録者は19名であった。

研修委員会企画の「研修会」の開催に伴い、「応用心理士」認定制度規則の認定要件に1項を追加することを常任理事会に提案し、承認された。そのため、この提案は本理事会の審議事項となった。

認定「応用心理士」証明書(カード)を2002年度からプラスチックカードにする。

iii 学会賞・奨励賞選考委員会(越河委員長)

2002年度の学会賞・奨励賞受賞者は、委員会による第1次選考と常任理事会による第2次選考の結果、以下の通りとなった。

学会賞：尾入正哲氏

労働環境の改善に対する一連の心理学的研究に対して

奨励賞：篠原一光氏

運転者の注意の問題等に関する研究に対して

iv 学会史編集委員会

(村井委員長代理事務局長)

村井健祐委員長のご逝去のため、村井委員長とともに「日本応用心理学会史」の編纂に携わった鈴木祐子氏に引き続き補遺編集作業を依頼し、会長、事務局長のもとで、補遺刊行に向けて継続的に資料収集を行う。

v 国際交流委員会(長塚委員長)

第25回国際応用心理学会議(7月7～12日シンガポール)に、本学会企画のシンポジウム「日本における応用心理学研究、実践および問題解決法：その過去、現在および将来」を行った。本学会からのメッセージの発信という目的をある程度達しえた。

vi シンポジウム委員会(正田委員長)

2002年2月2日に、小野浩一氏の企画による「ロールプレイングの理論と実際」というテーマで公開シンポジウムを開催した。

vii 広報委員会(林委員長)

ニュースレターNo5, No6を発行した。応用心理学会のホームページが充実した。

viii 研修委員会(大塚委員長)

本大会で第1回研修会を開催。受講者には受講証を発行する。

研修A：「作業疲労と安全の研究に携わった経緯」(講師 太田垣瑞一郎氏)。

研修B：「交通心理学におけるハザード知覚とリスクテイキング」(講師 蓮花一巳氏)。

ix 倫理綱領作成委員会(藤田委員)

日本応用心理学会の倫理綱領の原案作成の作業を進めている。次期理事会で綱領案を提

出する予定である。

- 2) 2001年度(第68回)大会報告
(細江前大会委員長)

資料に基づき大会の収支報告が行われた。

- 3) 日本心理学諸学会連合について(事務局長)
昨年度の大会以降2回開催された連合理事会の審議の内容と応用心理学会の対応が報告された。

5. 審議事項

- 1) 会則改正について

外部の状況の変化に対応し、さまざまな事業を継続的に推進していくためには、1年で理事長(会長)が交代する現行の会則では困難を生じてきたため、「理事長の任期を1年から3年とし、常任理事会から選出する。また、大会当番校の代表者をその在任中副理事長とする」という内容を骨子とする改正案が提出された。

審議の結果、内容の調整から来る文言の修正の上、この案を承認した。(新会則別掲)

- 2) 認定「応用心理士」認定制度規則第4条の改正について

研究の機会の少ない会員に応用心理士資格取得の道を開くために、認定「応用心理士」認定制度規則第4条に、4項として、『応用心理学と関係のある職で3年以上の経験を有し、本学会研修委員会企画の「研修会」に5回以上参加した者。』を加える案が提出され、承認された。(新規則別掲)

- 3) 2001年度決算について

決算書通り承認された。

- 4) 2002年度予算について

原案通り承認された。

- 5) 名誉会員推薦について

常任理事会提案の、次の5氏を総会に推薦することが承認された。(五十音順)

大塚博保氏 交通安全研究所

越河六郎氏 松蔭女子大学教授

島田俊秀氏 鹿児島大学名誉教授

田中昌人氏 龍谷大学教育開発センター主任

正田 亘氏 常磐大学人間科学部教授

- 6) 事務局の業務委託について

学会の事務手続きの効率化、簡略化のために国際文献印刷に事務の一部を業務委託することを承認した。

- 7) 2004年度(第71回)大会開催校について
日本大学商学部(大会委員長 嘉部和夫教授)が推薦され、承認された。

- 8) 新理事・監事について

複数の理事・監事の退任に伴い、新たに理事10名、監事1名が推薦され、承認された。

理事(五十音順)

尾入正哲氏 京都府立大学助教授

嘉部和夫氏 日本大学教授

鎌形みや子氏 株式会社日本経営総合研究所

神田信彦氏 文教大学助教授

鈴木由紀生氏 茨城大学教授

所 正文氏 国土館大学教授

内藤哲雄氏 信州大学教授

三戸秀樹氏 関西福祉科学大学教授

向井希宏氏 中京大学助教授

山本 寛氏 青山学院大学助教授

監事

高石光一氏 東京富士大学助教授

6. 閉会の辞(事務局長)

日本応用心理学会2002年度総会

日 時: 2002年9月8日(日) 11:50~12:50

場 所: 東京富士大学2号館3階231教室

1. 開会(荻野事務局長)

2. 会長挨拶(岡村東京富士大学教授)

3. 議長選出 岡村会長を選任。

4. 報告事項

- 1) 事業報告

- (1) 会員の異動および会費納入状況について
(荻野事務局長)

- (2) 委員会報告

- i 機関誌編集委員会

(小野委員長代理 事務局長)

- ii 認定「応用心理士」認定審査委員会
(岡村委員長)

- iii 学会賞・奨励賞選考委員会(越河委員長)

- iv 学会史編集委員会(事務局長)

- v 国際交流委員会(長塚委員長)

- vi シンポジウム委員会(正田委員長)

- vii 広報委員会(林委員長)

- viii 研修委員会(大塚委員長)

- vx 倫理綱領作成委員会(藤田委員)

- 2) 2001年度(第68回)大会報告
(細江前大会委員長)
 - 3) 日本心理学諸学会連合について(事務局長)
5. 審議事項
- 1) 会則改正について
理事会修正案通り承認。(新会則別掲)
 - 2) 認定「応用心理士」認定制度規則第4条の改正について
原案通り承認。(新規則別掲)
 - 3) 2001年度決算について
決算書通り承認。
 - 4) 2002年度予算について
原案通り承認。
 - 5) 名誉会員推薦について
大塚博保氏、越河六郎氏、島田俊秀氏、田中昌人氏、
正田亘氏(五十音順)の5氏を名誉会員として承認。
 - 6) 事務局の業務委託について
国際文献印刷に事務の一部を業務委託することを承認。
 - 7) 2004年度(第71回)大会開催校について
日本大学商学部(大会委員長 嘉部和夫教授)
を承認。
 - 8) 新理事・監事について
理事10名、監事1名を承認。
理事(五十音順 敬称略)
尾入正哲、嘉部和夫、鎌形みや子、神田信彦、
鈴木由紀生、所正文、内藤哲雄、三戸秀樹、
向井希宏、山本寛
監事 高石光一
6. 学会賞・奨励賞授与
岡村会長より、尾入正哲氏に学会賞、篠原一
光氏に奨励賞が授与された。
7. 2003年度(第70回)大会開催校挨拶
(流通科学大学 森下高治教授)
 8. 2004年度(第71回)大会開催校挨拶
(日本大学 嘉部和夫教授)
 9. 閉会の辞(事務局長)
- ・「日本応用心理学会会則」別掲
 - ・日本応用心理学会認定「応用心理士」認定制度に
関する規則 別掲
 - ・第68回大会決算報告 別掲
 - ・2001年度決算書 別掲
 - ・2002年度予算案 別掲

日本応用心理学会会則

第1条(名称) 本会は日本応用心理学会(The Japan Association of Applied Psychology)と称する。

第2条(目的) 本会は応用心理学の研究の発展を促進し、隣接諸科学との交流を図り、もってわが国の文化と福祉の向上発展に貢献することを目的とする。

第3条(事業) 本会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

- (1) 応用心理学の研究に関する諸業務との連絡、新分野の開拓、会員の親和増進
- (2) 機関誌、その他の刊行物の編集および刊行
- (3) 大会その他の必要な会合の開催
- (4) 本学会認定「応用心理士」の資格認定
- (5) 外部からの要請による斯学研究および応用業務の受託あるいは斡旋
- (6) その他必要な事業

第4条(会員) 本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員、および学生会員とする。

本会に入会しようとする者は、正会員の推薦により所定の手続きを経て、常任理事会の承認を得ることとする。

2 正会員の入会資格は、次の通りとする。

- (1) 四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻した者
- (2) 第1号に準じる者

正会員の会費は年額6,000円とする。

3 名誉会員は本会の正会員又は正会員であった者で、本会のために著しい功績があった者であって、理事会の議を経た上で、総会の承認を得た者とする。なお、名誉会員は会費を納める義務を有しない。

4 賛助会員は本会の事業に賛同し、理事会の承認を経て、所定の会費をもって本会の事業に財政的援助をする者とする。

賛助会員の会費は、年額1万円以上とする。

5 学生会員は、四年制以上の大学で、心理学およびその隣接分野を専攻している4年次以上の学部在籍中の学生とする。

学生会員である者が、正会員として入会を希望する場合は改めて入会の申請を必要とする。

学生会員は、正会員の連名者として本学会大会の発表者となることができる。

学生会員は、正会員と同様に機関誌、ニューズレター等の配布、会務連絡を受けることができるが、応用心理学研究掲載諸報告の連名者となることはできない。

また本会の業務に関する選挙権、被選挙権を有しない。

学生会員の会費は正会員の2分の1とする。

第5条（役員） 本会に次の役員を置く。理事長1名、副理事長1名、理事若干名、監事2名。

2 副理事長を除く役員の任期は3か年とし、再任を妨げない。

第6条（理事長・副理事長） 理事長は常任理事の互選により選出される。

2 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

3 副理事長は当該年度の大会当番機関の代表者（大会準備委員長）がこれにあたる。ただし、理事長が大会当番機関の代表者なる場合は次期大会当番機関の代表者がこれにあたる。

副理事長の任期は、前期大会終了の翌日から当該大会終了の日までとする。

大会当番機関は、当該大会の前々年度総会において決定する。

4 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれに代わる。

第7条（理事・監事） 理事及び監事は総会において選出される。

2 理事は理事長及び副理事長と共に理事会を構成し、本会の運営にあたる。

理事会は理事長が召集する。

3 理事は互選により、常任理事若干名を選出する。常任理事は理事長および副理事長と共に常任理事会を構成し、理事会の委託を受けて本会の運営を常時担当する。

4 次期大会当番機関の代表者は前項の規定にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。

5 監事は本会の会計監査の業務にあたる。

第8条（事務局長） 事務局長は理事長の指名による。

2 事務局長は会の事務を統括する。

3 事務局長は第7条の規定にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。

第9条（事務局幹事） 本会事務の必要に応じ、事務局に事務局幹事若干名を置く。事務局幹事は会員の中から理事長が委嘱する。

第10条（委員会） 本会の目的達成のために必要あるときは、委員会を設けることができる。委員会に関する規則は別に定める。

第11条（総会） 総会は年1回開催の本会大会の時に開く。ただし理事長において必要があると認めるときは臨時総会を開くことができる。

第12条（退会および除名） 会員が退会を希望する場合には、退会届けを提出しなければならない。

2 会員が不都合な行為をした場合は、理事会の議決によってこれを除名することができる。

所定の会費を一定期間以上納入しない会員については、常任理事会の議を経て、退会させることができる。

第13条（事務局） 本会事務局を当分の間、東京都小平市小川町1-830 白梅学園短期大学心理学研究室（電話 042-346-5622, FAX 042-349-7373）に置く。

2 事務局には、事務局長、事務局幹事および局員若干名を置く。

第14条（会則改正） この会則の改正は、総会に出席した正会員の3分の2以上の同意を必要とする。

付則 1 本会則は平成12年9月9日より実施する。

2 本会則は平成14年9月8日より改正施行する。ただし、新役員の就任は平成15年4月1日とする。

日本応用心理学会認定「応用心理士」認定制度に関する規則

1. 日本応用心理学会認定「応用心理士」認定制度規則

(趣旨)

第1条 日本応用心理学会（以下「本学会」という）は、本学会会則第3条第5号に基づき、本学会会員の専門職としての資質の向上を図るため、本学会認定「応用心理士」の認定の事業を行う。

2 前項の事業を行うため、その必要な事項を、この規則に定める。

(認定審査委員会)

第2条 前条第1項の認定に必要な審査を行う為、本学会に日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会（以下「認定審査委員会」という）を置く。

2 前項の認定審査委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(認定)

第3条 認定は、認定審査委員会の議を経て、本学会会長が行う。

2 認定の手續きに関し、必要な事項は、別に定める。

(認定の要件)

第4条 認定は、本学会に入会後満2年を経過した者で、次の各号の一つに該当し、かつ本学会員の専門職としての資質があると認められた者について、これを行うことができる。

(1) 学校教育に定められた大学において、心理学専攻又はこれに準ずる学科を卒業した者（学位授与機構の審査により学士の学位を授与された者も含む）。

(2) 本学会機関誌「応用心理学研究」に1件以上の研究論文を発表した者、又は本学会の年次大会において2件以上の研究発表をした者。

(3) 認定審査委員会が応用心理学と関係があると認めた専門職で、3年以上の経験を有する者。

(4) 応用心理学と関係がある職で3年以上の経験を有し、本学会研修委員会企画の「研修会」に5回以上参加した者。

(認定の失効及び取消)

第5条 認定を受けた者が、本学会会則第12条前段により退会したときは、その認定は効力を失う。

2 認定を受けた者で、本学会会則第12条後段に定める行為が明らかになったときは、本学会会長は、その認定を取り消すことができる。

(経理)

第6条 この事業に関する経理は、当分の間、本学会事務局が行う。

(改正)

第7条 この規則の改正は、本学会運営委員会の議を経て、総会で行う。

付則 1 この規則は、平成5年9月11日から実施する。

2 平成14年9月8日より一部改正実施する。

日本応用心理学会第68回大会決算報告書

2002. 1. 31
於：岩手県立大学

収 入			支 出	
摘 要		金 額	摘 要	金 額
大会参加費		1,224,000	印刷費	1,263,325
(内訳) 正会員(予約)	5,000×141	705,000	(内訳) プログラム(×2,000)	451,500
正会員(当日)	5,500× 36	198,000	論文集(×400)	700,000
院 生(予約)	2,000× 40	80,000	大会封筒長3(×1,000)	12,600
院 生(当日)	2,000× 4	8,000	大会経費振替え用紙(×1,500)	11,025
学 生(予約)	1,000× 1	1,000	大会申し込み用紙(×1,500)	37,800
臨時会員(一般)	5,000× 34	170,000	大会案内第1号通知(×1,500)	36,225
臨時会員 (学生・院生)	2,000× 31	62,000	返信用封筒長3(×1,500)	14,175
発表費	5,000×168	840,000	通信費	484,760
プログラム代金	500× 1	500	(内訳) 1号通信郵送(料金別納)	148,820
論文集代金		314,500	2号通信郵送(料金別納)	233,940
(内訳) 個人(予約)	5,000× 39	195,000	論文集送料(340円×300部)	102,000
個人(当日以降)	5,500× 19	104,500	交通費	694,306
機関	6,000× 2	12,000	招待講演講師・通訳者交通・旅費	537,438
写真掲載料	500× 6	3,000	シンポジスト交通・旅費	156,868
懇親会代金		579,000	謝金	1,047,385
(内訳) 一般(予約)	6,000× 47	282,000	招待講演講師・通訳者交通・旅費	150,000
一般(当日)	6,500× 33	214,500	シンポジスト謝礼	74,000
院 生・学 生(予約)	3,000× 10	30,000	記念品代	119,385
院 生・学 生(当日)	3,500× 15	52,500	人件費(アルバイト代)	704,000
広告掲載料		240,000	懇親会費	753,922
A4判	20,000× 8	160,000	懇親会費	696,172
A5判	10,000× 8	80,000	懇親会行きバス運賃	57,750
学会本部より補助金		700,000	会合費	50,000
国際応用心理学会議記念基金助成		340,000	消耗品	256,379
岩手県学術研究振興財団助成		500,000	大会運営費	237,923
寄付金(内海滉先生より)		50,000		
合 計		4,788,000	合 計	4,788,000

監査の結果、上記の収支が適正であることを認めます。

2002年1月31日

岩手県立大学社会福祉学部教授 菊池章夫

以上の通り、ご報告いたします。

印

2002年1月31日

日本応用心理学会第68回大会準備委員長 細江達郎

印

日本応用心理学会2001年度決算

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
会費	<u>5,589,000</u>	<u>5,460,000</u>	第68回大会補助費	700,000	700,000
過年度分 55×6000	330,000	240,000	学会賞・奨励賞	60,000	60,000
本年度分	5,259,000	5,220,000	心理学諸学会連合	45,000	45,000
876×6000+1×3000			シンポジウム・講演費	185,246	400,000
賛助会費	60,000	60,000	「応用心理士」関係経費	155,837	970,000
「応用心理士」関係	<u>420,000</u>	<u>970,000</u>	委員会活動費	<u>483,710</u>	<u>900,000</u>
審査料 (12名)	120,000	250,000	学会史編集委員会	0	50,000
認定料 (10名)	300,000	720,000	機関誌編集委員会	43,463	250,000
			学会賞・奨励賞選考委員会	2,079	50,000
寄付金	0	0	シンポジウム委員会	81,651	100,000
			国際交流委員会	228,407	200,000
雑収入	325,676	200,000	広報委員会	5,440	100,000
			研修委員会	122,670	150,000
名簿作成積立金取り崩し	1,000,000	1,000,000			
			印刷費	<u>1,655,124</u>	<u>3,400,000</u>
			機関誌	757,900	2,000,000
			広報関係	99,750	200,000
			その他(名簿他)	797,474	1,200,000
			通信費	<u>522,090</u>	<u>860,000</u>
			機関誌郵送費	96,725	240,000
			広報関係郵送費	86,640	200,000
			その他(名簿他)	338,725	420,000
			常任理事交通費	504,420	800,000
			アルバイト費	1,117,800	1,400,000
			事務局費	481,201	700,000
			予備費	0	306,915
小 計	7,394,676	7,690,000	小 計	5,910,428	10,541,915
前年度繰越金総額	<u>4,351,915</u>	<u>4,351,915</u>	次年度繰越金総額	<u>5,836,163</u>	<u>1,500,000</u>
名簿作成積立金	0	0	名簿作成積立金	500,000	300,000
特別企画積立金	700,000	700,000	特別企画積立金	1,500,000	1,200,000
前年度純繰越金	3,651,915	3,651,915	次年度純繰越金	3,836,163	0
合 計	11,746,591	12,041,915	合 計	11,746,591	12,041,915

以上の通り相違ありません。

2002年7月26日

監査委員 山 本 寛 ㊟

監査委員 藤 森 立 男 ㊟

日本応用心理学会2002年度予算

収 入			支 出		
項 目	予 算 額	前年度決算額	項 目	予 算 額	前年度決算額
会費	<u>5,400,000</u>	<u>5,589,000</u>	第69回大会補助費	700,000	700,000
過年度分 (40名)	240,000	330,000	学会賞・奨励賞	100,000	60,000
本年度分 (860名)	5,160,000	5,259,000	心理学諸学会連合	45,000	45,000
			シンポジウム・講演費	500,000	185,246
賛助会費	60,000	60,000	「応用心理士」関係経費	420,000	155,837
「応用心理士」関係	<u>620,000</u>	<u>420,000</u>	委員会活動費	<u>1,350,000</u>	<u>483,710</u>
審査料 (17名)	170,000	120,000	学会史編集委員会	100,000	0
認定料 (15名)	450,000	300,000	機関誌編集委員会	200,000	43,463
			学会賞・奨励賞選考委員会	50,000	2,079
寄付金	0	0	シンポジウム委員会	100,000	81,651
			国際交流委員会	400,000	228,407
雑収入	250,000	325,676	広報委員会	100,000	5,440
			研修委員会	200,000	122,670
名簿作成積立金取り崩し	0	1,000,000	倫理綱領作成委員会	200,000	0
特別企画積立金取り崩し	300,000	0	印刷費	<u>2,300,000</u>	<u>1,655,124</u>
			機関誌	1,800,000	757,900
			広報関係	200,000	99,750
			その他	300,000	797,474
			通信費	<u>800,000</u>	<u>522,090</u>
			機関誌郵送費	250,000	96,725
			広報関係郵送費	200,000	86,640
			その他	350,000	338,725
			常任理事交通費	800,000	504,420
			アルバイト費	1,200,000	1,117,800
			事務局費	700,000	481,201
			国際応心補助金	400,000	0
			予備費	351,163	0
小 計	6,630,000	7,394,676	小 計	9,666,163	5,910,428
前年度繰越金総額	<u>5,536,163</u>	<u>4,351,915</u>	次年度繰越金総額	<u>2,500,000</u>	<u>5,836,163</u>
名簿作成積立金	500,000	0	名簿作成積立金	1,000,000	500,000
特別企画積立金	1,200,000	700,000	特別企画積立金	1,500,000	1,500,000
前年度純繰越金	3,836,163	3,651,915	次年度純繰越金	0	3,836,163
合 計	12,166,163	11,746,591	合 計	12,166,163	11,746,591

日本応用心理学会常任理事会議事録

2002年度 第1回 常任理事会

日 時：2002年4月20日(土) 13:30～15:30

場 所：東京富士大学本館1階第2会議室

出席者：岡村・森下・稲毛・浮谷・荻野・小野・垣本・
越河・田中・長塚・馬場・林・福原・藤田・正田
事務局(神田, 岩田, 藤瀬)

報告事項

1. 高橋たまき先生ご逝去について(荻野事務局長)
去る4月11日, 現常任理事・機関誌編集委員会委員長の高橋先生が亡くなられた。
2. 2002年度(第69回)大会について(岡村理事長)
今大会は次のような点でこれまでの大会と異なる。①ポスター発表を加えた。②研修会を実施する。③総会を第2日目に行う。④論文集を大会前に作成する。
3. 委員会報告
 - 1) 機関誌編集委員会(越河委員)
今後のことについて, 本日の編集委員会で検討する。当面の問題については越河委員が対応している。
 - 2) 国際交流委員会(長塚委員長)
IAAP25回(シンガポール)大会について
 - ① 第25回国際応用心理学会でのシンポジウムについて, 3月24日学士会館でシンポジウム関係者6名で会合を持ち, それぞれの準備状況を確認した。6月に事前のリハーサルを行う予定である。
 - ② 同大会終了後, 東京で海外の研究者に講演を依頼する件については, スケジュール等の把握が難しく情勢は流動的である。
 - 3) 倫理綱領作成委員会(田中委員長)
 - ① 倫理綱領に関わる資料を収集している。今後それらの内容の分析と検討を行う。
 - ② 本学会の倫理綱領作成の方向性として以下の点が挙げられている。
他学会のようにコンパクト化した書面として作成する。さらにそれを詳しく説明したものを含むことが必要である。様々な事例を挙げ参照できるようにする。
 - ③ 作業を効果的に推進し提案するために委員会メンバーを追加したい。

4) 広報委員会(浮谷委員)

① ニュースレター第5号ができた。第6号は6月下旬に発行予定である。

② ホームページが充実してきた。

5) 認定「応用心理士」審査委員会(岡村委員長)
前期受付期間は5月末までである。

6) 研修委員会(岡村委員)
第69回大会で研修会を行う。

4. その他(事務局長)

- 1) 2002年版の会員名簿を刊行。全会員に発送した。
- 2) 外部から求人が来ることがあり, 対象が認定応用心理士に限定されるような場合は, ホームページを通じて会員に広報することとしたい。
- 3) 非会員の連名発表はできないかとの問い合わせがある。(今後の検討課題とすることになる。)
- 4) 大学評価・学位授与機構から評価委員の推薦依頼あった。(理事に資料を送付し希望があれば推薦することとなった。)
- 5) 第68回大会決算報告に誤りが見つかったため開催校から修正版が送られてきた。

審議事項

1. 会則改正について

前回の常任理事会で指摘された諸点を踏まえ, 主として第6条にかかわる, 役員の任期, 職務, 理事長, 副理事長の選出方法の改正を主とする提案がなされた。審議の上, 以下のような変更を行うことを承認した。なお, 理事の選出方法については今後検討していくことを確認した。

主な変更点は以下の通りである。

- ① 理事長は常任理事の互選により選出される。
 - ② 副理事長は大会当番機関の代表者(大会準備委員長)がこれに当たる。ただし, 理事長が当該年度大会当番機関の代表者となる場合は, 次期大会当番機関の代表者がこれに当たる。
 - ③ 大会当番機関は当該年度の前々年度総会において決定することを会則に盛り込む。
- ##### 2. 機関誌編集委員会委員長選出
- 高橋委員長のご逝去に伴い新たに委員長を選出する提案がなされ, 編集委員会に一任することとなった。
- ##### 3. 倫理綱領作成委員の1名増員について

浮谷常任理事に決定した。なお、この委員会の任期は、総会において中間報告を行い、その次点で明確化することを確認した。

4. 新入会員審査

正会員として19名の入会を承認した。

2002年度 第2回 常任理事会

日 時：2002年6月15日(土) 13:00～16:00

場 所：東京富士大学本館1階第2会議室

出席者：岡村・森下・稲毛・浮谷・荻野・小野・越河・坂野・田中・長塚・馬場・藤田・福原・正田・八木
事務局（神田・岩田・藤瀬）

報告事項

1. 2002年度（第69回）大会について

（岡村大会準備委員長）

現時点における申し込み状況等について報告。

2. 委員会報告

1) 認定「応用心理士」審査委員会（岡村委員長）

① 前期は6名の申請があり全員を合格とした。

② 認定委員会で研修会との関係を検討。資格取得者対象と、申請資格条件に満たない人を対象とし、後者については5回以上の参加で申請資格を得る事などを検討した。常任理事会に提案する予定である。

2) 国際交流委員会（長塚委員長）

4月20日に委員会を開催し以下の点を討議した。

① 国際応用心理学会にあわせて外国の研究者を招聘し講演会を行うことを検討してきたが、対象となる研究者の都合がつかないこと、大会プログラムが未だ入手できず参加者を把握できないので、今年度は見送りとする事とした。

② 国際応用心理学会議で、日本応用心理学会企画のシンポジウムに出席する6名（うち1名は非会員）に、参加にあたって補助金を準備したい。本日、委員会を開催し上記補助金の額について話し合った。会員については費用の3分の1、非会員については2分の1程度の補助を適当と考える。（これについては予算案の審議に加えて検討する事となった。）

3) 倫理綱領作成委員会（田中委員長）

本日、委員会を開催し、以下の点を検討した。今回は応用心理学会の倫理綱領作成にとどめ、応用心理士の倫理綱領についてはその後のこととする。

日本心理学会等の倫理綱領を参考にした上で、コンパクトなものを作る。日本心理学会等の倫理綱領は個人の問題を基本にしているが、応用心理学会では集団についても考慮する。

情報管理はプライバシーだけでなく、研究方法や研究のプロセスの透明性を考慮する。

他学会のルール等を参考にし、倫理の研鑽を助言していく。国連では人権についてどう守っていくかということが打ち出されているので取り入れていく。

国際応用心理学会の状況も調べ参考にする。

次回は各メンバーが具体案を作成し持ち寄り検討を行い、総会時には具体的提案を行いたい。

3. 心理学諸学会連合からの照会事項について

（事務局長）

連合から基礎資格の筆記試験に関する照会事項が来ているので、回答内容について審議したい。

審議事項

1. 機関誌編集委員長選出および機関誌発行方針について

編集委員会より、4月20日の委員会で小野委員を選出したとの報告があり、これを承認した。（任期は前委員長の残任期間である2003年3月31日までとする。）

また、5月2日の委員会で投稿論文処理状況、編集体制及び2002年度の発行について話し合った結果、特に、1巻2号体制は3号分遅れがあるが、これを切り捨て2002年度から新たに1巻2号を発行していくとの提案がなされ、これを承認した。

2. 2001年度決算について

2001年度決算について事務局長から資料に基づいて説明が行われ、決算書通り承認された。

3. 2002年度予算について

2002年度予算（案）について事務局長から資料に基づき説明が行われ、以下の点を修正の上、承

認された。

- ① 「国際応心助成金」を「国際応心補助金」に名称変更し、予算額を100,000円減額し400,000円とする。
- ② 「学会賞・奨励賞」の予算額を60,000円から100,000円に増額し、各賞50,000円とする。
- ③ これらの変更を予備費で調節する。
- ④ 「国際応心補助金」の記載位置を予備費の上に移動する。

4. 学会賞・奨励賞第2次選考

締め切りの6月5日までに両賞とも推薦がなかったため、推薦期限を次回常任理事会まで延期し、次回候補者を推薦したいとの提案がなされた承された。

5. 2004年度開催校について

日本大学商学部（代表 嘉部和夫氏）で検討を行ってもらっており、同大学事務局の承諾を待つて決定することとなった。

6. 次期理事選出について

- ① 常任理事から推薦のあった候補者16名から以下の10名を新理事として、1名を監事として選出した（敬称略）。

理事：鎌形みや子・嘉部和夫・山本 寛・
三戸秀樹・神田信彦・鈴木由紀生・
所 正文・内藤哲雄・向井希宏・
尾入正哲

監事：高石光一

- ② 次期理事の選出に関連して、以下の議論があった。

理事候補者推薦について入会年次に関する基準も必要である。理事候補者推薦について何らかの基準を検討する必要がある。1人で複数の候補者の推薦を行うのは問題であり、複数推薦をする場合は、どの候補者を優先するかを推薦者が明確にする必要がある。

7. 心理学諸学会連合からの照会事項について

日心連基礎資格のあり方について、各学会が基礎資格の筆記試験及び基礎資格をどのように位置づけるか、筆記試験費用及び問題作成委員の分担についてどう考えるかが問われた件について資料に基づいて荻野事務局長から説明があり、審議を行ったが結論がでず継続審議となった。

審議に当り、以下のような意見が出された。

日本心理学会の認定心理士は各大学のカリキュラムに介入してくる可能性があり、筆記試験に一本化するの望ましい。医療心理士が制度化されることは心理学界全体に関わる問題であり、早急に対策を立てる必要がある。医療心理士制度を阻止していくためには試験制度を作るしかないであろう。なぜなら行政から学界が一本化していることが重要であると指摘されており、今後対抗していくためには一本化した上で代替案があることを示すべきである。

8. 次期事務局について

現在次期事務局を引き受けてくれる機関が決まっていないが、事務業務を外部に委託することによって、引き受けやすくすることを考えている。事務代行を行っている業者の一つから見積もりをとったが機関誌の印刷も含め現行よりもかなり安い費用となっている。以上のような事務局長の説明があり、当該業者の信頼性を確認し再審議することとなった。

9. 名誉会員推薦

審議の結果、以下の5氏を名誉会員に推薦することとなった（敬称略）。

田中昌人・大塚博保・正田 亘・島田俊秀・
越河六郎

10. 新入会員審査

正会員として31名の入会を承認した。

11. 新役員選出手順について

岡村理事長より、新役員選出の日程案（以下の通り）が示され、承認された。

- 1) 9月7・8日の理事会と総会に会則改正案を提出し、同意を得る。
- 2) 会則改正成立後、新理事・監事を選出する。
ただし、現役員は2003年3月末日までは現行の会則に則って行う。
- 3) 10～11月に新理事の互選により常任理事を選出する。
- 4) 12月～1月に新常任理事の互選により理事長を選出する。
- 5) 2003年4月に新役員就任。
- 6) 2003年4月に新理事長は各委員会委員長を選出する。

2002年度 第3回 常任理事会

日 時：2002年8月2日(土) 13:00～16:00

場 所：東京富士大学本館1階第2会議室

出席者：岡村・森下・浮谷・内海・大久保・大塚・
荻野・小野・越河・坂野・長塚・馬場・
林・福原・松浦・八木
事務局(岩田)

報告事項

1. 2002年度(第69回)大会について

(岡村大会準備委員長)

8月14日にはプログラムおよび論文集を発送する予定である。研究発表は106件(ポスター発表18件)となった。理事会を1日目、総会を2日目とした。研修会を1日目午後に配置した。公開シンポジウムは3件となる。

2. 委員会報告

1) 機関誌編集委員会(小野委員長)

28巻1号ができた。現在、審査中論文は4編。巻ごとに表紙の色を変えることとする。

2) 認定「応用心理士」資格審査委員会

(岡村委員長)

今後、認定証明書をプラスチックカードとする。既認定者については、希望者についてプラスチックカードに変更する。

3) 国際交流委員会(長塚委員長)

2002年7月7日から12日までシンガポールにおいて開催された第25回国際応用心理学会議において日本応用心理学会企画シンポジウム「日本における応用心理学研究、実践および問題解決法：その過去、現在および将来」を行い、成功裡に終わった。

なお、国際応用心理学会議は4年ごとにあるが、同会議でのシンポジウムを恒例化したらどうかとの意見も出された。

4) 学会賞・奨励賞委員会(越河委員長)

学会賞、奨励賞について推薦があったので学会賞・奨励賞委員会で候補者を絞った。

5) 広報委員会(林委員長)

ニュースレター6号を6月末に発行した。

次号は学会会則改訂の特集として10月の発行を予定している。

6) 研修委員会(大塚委員長)

第1回研修会を第69回大会に組み込み、太田垣瑞一郎氏と蓮花一己氏を講師にお願いし実施することとなった。受講者には受講証明書を発行する。

2. 事務局報告

理事・監事および名誉会員の承諾の可否の問い合わせを行ったところ、理事1名の辞退があったが他は全員承諾された。なお、12月末日を以って70歳以上になられる理事には、継続承諾の問い合わせを行わなかった。この点については審議を行う予定である。

審議事項

1. 2001年度決算の訂正について

事務局長より、山本監査委員の指摘で雑収入が数円少なく計算されていることが判明したためその部分を修正した決算を承認願いたいと再提案がなされ承認された。

2. 2002年度予算の修正について

事務局長より、「応用心理士」関係経費として、前回200,000円で予算案の承認を得たが、岡村委員長から認定証のケース作成のために420,000円に増額を要請されたため変更したい、増額分については予備費を減額することで対応する旨の説明があり提案通り修正が承認された。また、学会賞・奨励賞を60,000円から100,000円に増額し、国際応心補助金を500,000円から400,000円に減額すること、および今回の変更により予備費が351,163円となることが確認された。

3. 学会賞・奨励賞第2次選考

越河委員長より、学会賞奨励賞委員会での第1次選考の結果が報告され、第2次選考を行い、提案通り承認された。

学会賞：尾入正哲氏 京都府立大学福祉社会学部助教授

奨励賞：篠原一光氏 大阪大学人間科学部助手

4. 次期理事について

1) 70歳以上の会員は理事として再任しないことを承認した。

2) 辞退のあった理事の1名については今回は補充しないことを承認した。

5. 2004年度(第71回)大会開催校について

日本大学商学部(準備委員長 嘉部和夫教授)

を2004年度(第71回)大会開催校として承認した。

6. 心理学諸学会連合への回答について

常任理事より、文書による意見聴取を行い、それを集約し、連合の理事である理事長、事務局長が回答することを承認した。

7. 認定「応用心理士」認定制度規則第4条の改訂について

岡村認定審査委員会委員長より、従来の要件を満たせない会員のために、認定「応用心理士」資格取得のための道を開くことを目的とし、「応用心理士」認定制度規則第4条に4項として『応用心理学と関係のある職で3年以上の経験を有し、本学会研修委員会企画の「研修会」に5回以上参加した者。』を加えること、さらにこれに関係して付則に2項として「平成14年9月8日より一部改正実施する。」を加える提案がなされ、承認された。

8. 次期事務局について

事務局長より、次のような説明がなされた。次期事務局の引受先がなかなか決まらない理由の一つとして、事務量の多さがあると考えられる。事務の効率化と簡素化を行い引受先を決めるために事務の一部を外部委託することが考えられるので、学会事務センターと国際文献印刷から見積りをとった。その結果、国際文献印刷は費用の点で現状とさほど変わらない額が提示された。上記の結果を踏まえ、国際文献印刷に業務委託したいと

の提案がなされ、承認された。

9. 認定「応用心理士」事務局移転について

新体制の動向により検討することになった。

10. 新入会員審査

正会員7名の入会を承認、2名については再審査となった。

11. 機関誌・大会発表論文集の電子化および権利委託について

事務局長より、以下の説明があった。メテオ・インターゲートという会社から機関誌、大会発表論文集の電子化の依頼があった。プリントアウトされ利用された場合その費用の10%が応用心理学会の収入となる。すでに学術著作権協会とも同様の権利委託を行っているがこれについても契約更新の要望が寄せられている。

両件について審議し、承認された。

12. 2003年度(第70回)大会日程他について

① 森下準備委員長より、第70回大会を2003年度9月5日(金)・6日(土)の両日とすることが提案され、承認された。

② 大会への名誉会員ご招待の件

従来、大会および懇親会にご招待で、発表の場合のみ費用をいただいていたが、今大会では発表費も免除し、参加の場合は論文集を差し上げる(予稿集となったため)ことが承認された。